

可児高校の探究活動

生徒一人ひとりが自己の生き方を主体的に考え、より良い未来を切り拓くために、自ら課題を設定し、その解決に向けて探究的に取り組むことのできる資質・能力の育成を目指しています。

県の「地域課題探究型学習推進事業」を受け、探究的な学習を通して、校訓やグラデュエーション・ポリシーの実現に取り組んでいます。

グラデュエーション・ポリシー

- 自分の将来を主体的に考え、高い志と向上心をもって行動できる生徒
- 高い倫理観を身につけ、他者を尊重し協働できる生徒
- 豊かなコミュニケーション能力を備え、リーダーシップを発揮できる生徒

令和7年度スケジュール

	1年生	2年生	有志
4月・5月	● 探究手法を学ぶ	● 社会課題を考える	● 「GLAプログラム」スタート
6月	● 「ミニ探究」はじめての探究活動を体験	● リサーチクエスチョン設定	
7月	● ミニ探究発表会 ● 夏のオープンエンリッチ(地域探究出前講座)	● リサーチクエスチョン発表会	● 海外研修事前学習スタート ● 農業体験・コンポスト推進活動スタート
9月	● 未来発見講座	● 未来発見講座	
10月	● SDGsの観点から地域課題解決を考えよう	● 修学旅行探究(沖縄と可児を比較しよう) ● リサーチ・アクション	● GLAプログラム発表会
11月・12月	● 「グループ探究」地域課題解決型探究に挑戦	● リサーチ・アクション	● 海外研修
1月・2月	● 発表会(ホームルーム・学年)	● 発表会(ホームルーム・学年)	● 海外研修成果発表会
3月			● 高校生議会 ● コンポスト推進動画披露



総合的な探究の時間

学年探究 1年生 グループで協力して探究学習を行いました。

- 内容**
- 1 探究手法の学習 調査手法や意見のまとめ方などを学ぶ
 - 2 ミニ探究 与えられたリサーチクエスチョン(以下RQ)について探究活動を行う
 - 3 グループ探究 自分たちでRQを設定して探究活動を行う

ミニ探究では、学年統一で『可児市に来る観光客を増やすために何を行うべきか』というRQを与えられ、高校ではじめての探究活動を経験しました。そして、その後のグループ探究では、『可児市や周辺の市町村が抱える地域課題をどのように解決するか』を大きなテーマとして、それぞれの興味に応じて環境や高齢者支援、子育て支援などの分野でRQを設定して探究しました。調査の過程で、地域の団体や市役所を訪問した生徒もあり、実際に地域課題解決を行う人々からお話を伺う中で、多くの学びを得ました。年度末にはクラス内発表会と学年発表を行い、探究活動の成果を学年全員で共有しました。



生徒の感想

私は1年間の探究の授業を通して、仲間とともに地域課題の解決策を考えました。オープンエンリッチで地域の方々の話を聞いたり、クラス内交流で他の班の課題を発見したり、また、現地訪問をしてさらに問題の理解を深めたりすることで、より深く考えることができました。調査するなかで、自分たちの地域であっても知らないことが多く、現状に驚くこともありました。自分たちの地域についてより理解が深まったと思います。

学年探究 2年生 それぞれの興味・関心に合わせて個人で探究学習を行いました。

- 内容**
- 1 リサーチクエスチョンの設定 自身の興味・関心と社会課題を結びつける
 - 2 リサーチ・アクション 探究サイクルを繰り返し、考えを深める
 - 3 まとめ・論文作成 探究成果をわかりやすくまとめ、伝える

前年度に取り組んだグループ探究での学びや気づきを生かし、個人探究活動に取り組みました。RQ設定後は、リサーチの結果を踏まえて問題解決に向けたアクションを実行しました。活動が進むにつれて、一人ひとりが主体性を身につけ、問題解決に向けた思考力や表現力を高めることができました。

生徒の感想

私は公共交通に関するリサーチクエスチョンを設定し、探究学習に取り組みました。探究学習を通して大きく2つの学びを得ることができました。1つ目は、データ考察の手法に関することです。自動車社会である可児市における危険な箇所について、統計データや実際に通行した際の経験を基に分析・整理を進めることができました。また、地域には交通だけでなく、たくさんの課題が潜んでいると感じました。

2つ目は、生成AIとの向き合い方です。私は、課題の解決策を視覚化するために生成AIを利用しましたが、便利である一方で依存には注意が必要であると感じました。収集した情報について比較を慎重に行い、出典を明らかにする心構えを持ち続けたいです。



7月29日 夏の!オープンエンリッチ2025

地域課題に取り組む地元企業や卒業生をお招きし、講演やワークショップをしていただくイベントです。今年度は、1年生と2年生の希望者を対象に12の講座を開催しました。生徒は2講座を選択して参加し、地域に関する理解を深め、自らのキャリアを考えました。「総合的な探究の時間」での後期グループ探究活動の基盤づくりにもなりました。

講座例 | 可児市役所、JAめぐみの、結婚相談所、製造業、飲食店など

生徒の感想

私は可児市役所の方による講座に参加しました。講座では、可児市のさまざまな魅力について知ることができました。中でも印象に残ったのは、可児市にいる外国籍の方についての話です。可児市に外国人が多いのは、工場が多く立地し、外国人が働くことができる場所が多いからだとなりました。今まで、可児市に外国人が多い理由までは考えたことがありませんでした。講座で改めて状況を知り、背景を考えることができて良かったです。これからの探究活動では、資料のデータをただ読むだけでなく、比較・考察したり原因を考えたりすることを大切にしていきたいと思いました。



5月~10月 Global Leader Accelerator Program

GLAプログラムとは、探究活動の深化と表現力向上を目指した有志プログラムです。今年度は5名の生徒が参加し、One Young World Japan さんより、個人探究活動に関するオンラインでのメンタリングと英語でのプレゼンテーション指導を受けました。最終発表会では2年生全員の前で英語で探究成果の発表を行いました。

生徒の探究テーマ | 「外来種問題」「食事と健康の関係」「VRを使った学習」「貧困の撲滅」「岐阜県における平和教育」

生徒の感想

私は5月に長崎で「Peace Preneur Forum」(さまざまな国籍の若者が集まり、平和について考えるイベント)に参加しました。そこで、同世代の人たちが署名活動や平和教育に関する活動を行っていることを知り、岐阜との違いを痛感しました。また、さまざまな世代、国籍の方とディスカッションするうちに、私自身がこれからどう生きていくべきなのかについて深く考えるようになりました。そして、私が長崎で受けた衝撃を周りにも広めたいと考え、平和教育を岐阜でも行うことを目指してGLAプログラムに参加しました。One Young World Japanの方々と長崎で出会った方々の協力のもと、私がやりたいと考える平和教育について、何度も練り直し、話し合いを重ねることができました。この経験を生かして、将来、平和活動に国際的に関わる一員になりたいと考えています。



農業体験・コンポスト推進活動

「コンポスト堆肥は作物の生育や味にどのような影響を与えるのだろうか?」という3年生生徒が昨年探究したリサーチクエスチョンについて、JAめぐみのさんの全面バックアップのもと、今年度、多くの生徒が参加して実際に農業体験をしながら取り組みました。7月の「夏の!オープンエンリッチ」で1年生生徒たちから野菜くずを集めてコンポスト堆肥づくりの実習を行い、希望生徒を対象に11月に小松菜の植え付け、12月に収穫を行いました。見た目と味について採点をしながら試食をして、土壌によって大きく生育と味が異なることを五感で実感しました。加えて、このコンポスト実習や農業体験を動画にして、可児市議会とともにコンポスト推進活動も行いました。



3月23日 高校生議会

毎年、可児市議会議場にて、生徒代表による探究学習の報告や市議会に対する意見書提出などを行っています。学習の成果を発揮し、高校生ならではの視点やアイデアで可児市がより良くなるための提言ができました。

